

H 建設候補地、概算事業費、予算・施設内容及び意見聴取の必要性に関するもの

1 寄せられたご意見

受付 No.	ご意見
17	このたびの「生涯学習施設整備基本計画（案）」につきまして、未来志向の多世代交流拠点としての構想には共感いたします。しかしながら、下記の点について慎重な再検討と、より具体的な情報の開示・議論の深化をお願い申し上げます。 1. 施設の多機能化による焦点の曖昧さ 図書館、公民館、子育て支援、商業施設などの複合化は利便性向上に資する一方で、各機能の質や専門性が損なわれるおそれがございます。特に図書館機能が他用途に圧迫されることのないよう、必要面積や静穏性の確保など、専用性に配慮した設計が必要です。 2. 立地とアクセス性の課題 「駅近」「交通の便の良さ」といった条件が計画案には示されていますが、具体的な公共交通との接続、駐車場台数などについての明示がありません。高齢者・子育て世帯・車を持たない層など、多様な利用者の移動手段に配慮した立地・導線の検討を求めます。 3. 財政面での持続可能性 多機能施設の整備・維持には多大なコストが想定されます。今後の人口減少と税収縮小を見据えたうえで、施設の規模や機能を精査し、費用対効果や想定利用者数などの根拠を市民に明示すべきと考えます。運営段階での民間活用や収益確保策についても併せて検討されたいところです。 4. 市民参画の実効性 ワークショップ形式での意見聴取は評価すべき取り組みですが、参加者の年代・居住地域・職業などの属性データが示されておらず、多様な市民の声が反映されているか不透明です。今後も意見募集を継続し、そのプロセスと結果を可視化することが求められます。 5. 災害リスクへの配慮 整備予定地は、活断層である橿形断層帯の直上に位置し、大地震のリスクが指摘されているエリアです（出典：地震調査研究推進本部）。また候補地が山手に位置するため、豪雨災害時の土砂崩れの危険性も高く、災害に対する多層的な備えが必要です。 以下の対応を強く要望いたします：法定基準を上回る耐震設計（耐震等級 3 相当以上）、地盤・斜面の安定性調査と必要な改良工事、防災備蓄・衛生機能・非常電源などの整備 地域の避難拠点としての明確な位置づけ 6. 現中央公民館跡地の有効活用 現在の中央公民館の敷地には、既に広大な空き地が存在しています。都市インフラが整い利便性も高いこの立地を長期間遊休化しておくのは、市の資産運用として望ましいとは言えません。 以下のような活用を検討いただきたく存じます：市民活動拠点や学習機能の一部を分散配置 防災備蓄倉庫・一時避難所としての整備 多目的広場や屋外交流空間 市民提案型アイデア公募による用途決定 7. アクセス道路整備の検討について 現状、当該敷地へのアクセスは関沢側の狭小な道路に限られており、今後の来館者増加や緊急対応を考慮すれば交通容量が不十分です。 具体的には、国道 7 号線からの直接乗り入れを可能とする道路整備を検討いただきたく、特に「星の宮音楽堂」と「トヨタカラー中条店」の間の道路を、片側 1 車線ずつの計 2 車線道路に拡幅する案をご提案いたします。 加えて、歩行者の安全性を高めるため、単なる横断歩道だけでなく地下歩道の整備も併せてご検討ください。 8. 市街地の空洞化への対応 胎内市においては、中心市街地の人口流出や商業縮退により、空洞化が進行しております。このような背景の中、施設の新設が郊外偏重になれば、中心市街地の衰退を一層加速させるおそれがございます。 中心地の空き地や空き店舗等、既存の都市ストックを活用しながら、施設整備をまちづくりの一環として捉え、以下のような観点から再検討をお願いいたします： 「まちなか回遊性」を生む立地と動線計画 地域商業・医療・福祉との連携 中心市街地活性化との整合性確保 以上 8 点につき、再考とさらなる具体化をお願い申し上げます。生涯学習施設が「教育の場」としてだけでなく、「市民の居場所」「地域再生の起点」として機能することを願っております。

2 回答

【建設候補地について】 ※再掲

胎内市生涯学習施設整備基本構想の策定にあたっては、当時の検討委員会やワークショップを通じて、市民代表の皆様からいただいたご意見を踏まえ、図書館や公民館の機能に加え、多世代や子育て世代の全市民を対象とする施設として検討を進めてきております。

建設候補地につきましては、駅周辺や旧中条体育館跡地といった案も挙がりましたが、たとえば駅周辺は敷地の広さを含め、適切な土地の確保が難しいこと、また旧中条町体育館跡地は今後の統合中学校の建設候補地としても検討されていることなどから、様々な条件を総合的に勘案し、現時点では関沢地内（通称：嘉平山）をあくまでも予定地ではなく、有力候補地として挙げているところです。※基本計画（案）18 頁、「5 建設候補地」参照

建設候補地に関しては、市民の皆様からいただいた多様なご意見を今後も丁寧に受け止めながら、専門的な知見も踏まえて、できる限り多くの皆様にご利用いただけるよう、望ましい方向性を見出してまいりたいと思います。

なお、今後、市民説明会を開催し、市民の皆様からの様々なご意見に耳を傾けながら多様な意見を望ましい方向に集約すべく、市に対して答申を行っていただく組織を立ち上げる予定としております。

【徒歩で行ける場所について】 ※再掲

生涯学習施設は地区住民に限らず、市内全域の市民の皆様にご利用いただくことを前提としております。全ての地域から徒歩でお越しいただけるわけではありませんが、できる限り多くの方がアクセスしやすい立地となるよう検討を進めてまいります。

また、「のれんす号」の活用に加え、定期バスの運行についても検討してまいりたいと考えております。

なお、生涯学習施設は市民全体の施設として位置づけておりますが、現在の図書館と中央公民館は、これまで主たる利用の実相としては、中条地区の皆様の施設としての役割を果たしてきたものと受け止めており、中条地区においても、乙、築地、黒川地区の地区公民館等と同様に、図書室を併設した公民館的な機能については、既存施設の活用等を含め、その機能を維持していくことを基本方針としております。

【概算事業費について】 ※再掲

基本計画（案）の中でもお示しているとおり、概算事業費は造成費等の整備費を含めた建設コストの最大値として設定しております。したがって、今後は、設計者のアイデアや提案を柔軟に取り入れながら、可能な限りの効率化・縮小化を図り、コストの削減に努めてまいります。

【財政状況について】 ※再掲

費用面につきましては、可能な限り施設の効率化及び規模の適正化を図り、コストの低減に努めてまいります。

また、財源については、国の補助金等の活用を図るとともに、4 年後の運転開始が予定されている洋上風力発電事業から生じる、安定的かつ長期的な固定資産税収についても少なからぬ財源確保に資することが見込まれております。

【建設規模について】 ※再掲

基本計画（案）に記載されている延床面積は、基本構想で示すコンセプトに基づく想定面積の最大値であり、今後は設計者のアイデアや提案を柔軟に取り入れつつ、機能性や快適性を確保しながら、過大とならないよう十分に配慮し、コンパクトで実用的な施設を目指してまいります。

【複合施設について】 ※再掲

子ども・子育て世代や多世代交流を促進する交流施設としての機能も加え、公民館機能、図書館機能、多世代交流の場という3つの役割を担う複合施設の整備を目指していきたいと考えております。

検討委員会やワークショップを通じて、市民の代表の方からの意見を踏まえ、複合施設として整備することで、相互の連携を深め、市民の学びや課題解決を支援する、効率的かつ効果的な環境を整えてまいりたいと考えております。

【広範な市民の声を聴くことについて】 ※再掲

上記【建設候補地について】でも回答させていただきましたが、今後、市民説明会の開催や、多様な意見を望ましい方向に集約すべく、市に対して答申を行っていただく審議会のような組織を立ち上げることを考えてまいりたいと思っております。

【その他ご意見について】 ※再掲

その他いただいた貴重なご意見は、今後の検討や運営の参考とさせていただきます。